Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

(第16回研修医症例報告会)運動による関節負荷が契機と思われる硬膜外膿瘍を合併した化膿性椎間関節炎の小児例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西田, 悟, 石黒, 久美子, 木原, 祐希, 佐藤, 孝俊, 石垣, 景子, 阿部, 香代子, 永田, 智 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00033162

sus group に属し口腔内常在細菌叢の一部を形成しているが，脳膿瘍や深頸部膿瘍の原因となることがあるため注意が必要な細菌である．〔主訴〕左頸部痛．〔現病歴〕生来健康な5歳男児．起床時に左耳下に疼痛を自覚した．その後痛みが持続したため近医小児科や整形外科を受診したものの診断がつかず鎮痛薬で経過観察となっていた．発症11日目に38.0℃の発熱を認め，小児科を再診し当院紹介受診となった．来院時38.0℃の発熱と左頸部に約5 cmの腫瘤を認め，疼痛により開口障害も認めた．頸部造影CTを施行したところ左頸部に35 mm大の膿瘍形成を認め，頸部リンパ節膿瘍の診断で各種培養を施行し，入院加療の方針とした．SBT/ABPC 150 mg/kg/d点滴静注を開始し，翌朝耳鼻科で穿刺排膿を施行した．血性膿約3 mLを排出し，塗抹でグラム陽性の連鎖球菌を認めた．抗菌薬治療を継続し徐々に解熱傾向となっていたが，入院6日目に37.0℃台の微熱を認め，左頸部疼痛の悪化を認めた．再度ドレナージを検討していたところ入院8日目に自壊排膿した．その後速やかに疼痛は改善し，以降発熱なく経過した．血液培養は陰性で，穿刺した膿の培養で *Streptococcus intermedius* の発育を認め，抗酸菌培養は陰性であった．ABPCの感受性は良好であり，SBT/ABPC 2週間投与後に頸部超音波検査で膿瘍消失を確認し，CVA/AMPC内服に変更し退院とした．内服を含めて計3週間抗菌薬投与を行い，その後再発を認めていない．〔結語〕穿刺排膿にて *Streptococcus intermedius* が同定され，合併症なく軽快した症例を経験した．

17. 運動による関節負荷が契機と思われる硬膜外膿瘍を合併した化膿性椎間関節炎の小児例

（[1]卒後臨床研修センター，[2]小児科，[3]画像診断・核医学科）　○西田　悟[1]・石黒久美子[2]・木原祐希[2]・◎佐藤孝俊[2]・石垣景子[2]・阿部香代子[3]・永田　智[2]

〔緒言〕化膿性椎間関節炎は，椎間関節の細菌感染症であり，小児例は稀である．運動負荷後の報告が散見されているものの，その詳細は明らかではない．今回，我々は運動後に発症し，硬膜外膿瘍を合併した化膿性椎間関節炎の小児例を経験したため，文献的考察を含めて報告する．〔症例〕8歳男児．免疫不全を疑う家族歴・既往歴なし．発症前日に高さ2 mの滑り台からジャンプし，転倒なく着地．同日夜間より，発熱40℃と激しい腰痛を訴えた．翌朝（第1病日），近医で腹部単純MRIを撮像され，L3レベルの左傍脊柱筋に炎症所見を認めた．当科へ紹介となり，当初，化膿性筋炎疑いにて，緊急入院の上，抗菌薬治療を開始．バンコマイシン・メロペネム投与にて，腰痛の消失と解熱を認めた．第18病日に腰部造影MRIを施行したところ，化膿性筋炎の改善を認めた一方で，化膿性椎間関節炎と硬膜外膿瘍を認めた．脊髄圧迫症状はなく，手技的にも困難であったことから，外科的ドレナージは見送った．引き続き，抗菌薬加療を継続し，計77日間で投与終了可能となった．〔考察〕本疾患における小児例の特徴として，基礎疾患を持つ例が少なく，運動負荷後の発症が目立つという点が挙がる．運動負荷により，椎間関節の物理的ストレスが生じ，血行性感染や潜在的菌血症により感染が成立した後，化膿性筋炎と硬膜外膿瘍を合併し得ると考察されており，本例についても同様の機序を考えた．

18. 新型コロナウイルス感染後に脱毛症を発症した乳児

（[1]八千代医療センター卒後臨床研修センター，[2]藤森小児科，[3]八千代医療センター小児科）
○渡邊　啓[1,2]・◎藤森　誠[2,3]・◎髙梨潤一[1,3]

成人の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）後遺症として脱毛症が知られている．今回，乳児でCOVID-19罹患後の脱毛症を経験した．4か月の男児で，母のSARS-CoV-2陽性判明1日後に児の陽性が判明した．経過中37.8度の発熱が1日のみ出現し，その後他の症状なく軽快した．児の陽性判明後30日目より頭髪の脱毛を示したが，無治療で徐々に改善し，50日目には完治した．小児のCOVID-19後遺症として脱毛の報告は少なく，本例は感染後の脱毛の経過を示す貴重な症例であった．